

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19320105

研究課題名(和文) 全国墨書土器データベースの構築と在地社会の研究

研究課題名(英文) Compilation of Date Base of Pottery with Ink Inscriptions
as an Approach to Understanding Local Societies of Ancient Japan.

研究代表者

吉村 武彦(YOSHIMURA TAKEHIKO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：50011367

研究成果の概要(和文)：

墨書土器に関する研究文献データベースは、総計が1,866件になった(継続中)。墨書土器データベースは、全国簡易版(釈文・遺跡名・所在地・出典データ)が108,744点、詳細版は四国4県、鹿児島を除く九州6県と、北陸の富山、東海の静岡、および飛鳥・藤原・平城宮出土の墨書土器を公開した。この成果により、関東以西の墨書土器の全国的比較研究と都城との比較が可能になった。地域研究は、千葉県市川市を対象に進めている。

研究成果の概要(英文)：

The principal investigator has been compiling a comprehensive bibliography and data base of ancient Japanese pottery with ink inscriptions. Thus far, the bibliography lists 1,866 pieces of literature, and the number of publication is still increasing. The data base that the principal investigator has published on the web consists of two parts: abridged and full. The abridged version consists of transliteration of inscriptions, site name, location of the site, and reference where published, and covers the entire Japan. The abridged data base lists 108,744 discoveries. The full data base covers the following regions of Japan: all of Shikoku, all of Kyushu except for Kagoshima, Toyama on the Sea of Japan coast of the central Honshu, Shizuoka on the Pacific coast of the central Honshu, and Asuka, Fujiwara, and Nara imperial palace sites. These contributions make it possible to compare pottery with ink inscriptions discovered in the capitals and local regions in eastern Japan, thereby putting local discoveries into the broader historical context. In addition, the principal investigator has launched a regional study focusing on the Ichikawa City, Chiba Prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2008年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2009年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
2010年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
総計	14,000,000	4,200,000	18,200,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史・考古学・墨書土器・出土文字資料・データベース

1. 研究開始当初の背景

日本古代史では文献史料が少なく、発掘調

査で出土する木簡・墨書土器（含刻書土器）・文字瓦などの出土文字資料がきわめて重要な史料である。木簡については、独立行政法人奈良文化財研究所（奈文研）によって研究・調査され、木簡データベースとしてウェブで公開されている。しかし、木簡につぐ出土文字資料である墨書土器のデータベースについては、公的機関で集成が行われておらず、本申請者が中心となってデータベースの作成に努めてきた。

2. 研究の目的

(1) 文字史料が少ない日本古代において、墨書土器（含刻書土器）を研究・調査してデータを集成し、墨書土器データベースとして日本古代史の基本的史料群として整備することが目的である。そのためには、墨書土器に関する各種の文献を収集・研究することが基礎となる。歴史学や史料学においては、こうしたデータベースの構築自体が重要な研究といえるのであり、本研究の一大特長である。こうした事業は、日本では本プロジェクトだけであり、独創性をもつ調査・研究と評価できる。

(2) 墨書土器は日常的な意思伝達の情報であるが、非日常的な祭祀の場で多く用いられる。そのため画像データを含む日本全国に及ぶ詳細なデータベースの構築は、在地社会における古代の文字研究と宗教・思想研究に必須のツールとなる。こうした目的のため、詳細な墨書土器データベースを構築する。その地域的検証として、国府・国分寺が所在する下総国（千葉県市川市）を地域研究の対象とする。

3. 研究の方法

(1) 墨書土器に関する情報収集。墨書土器（含刻書土器）を調査・研究対象とした各種の研究文献・報告書を調査・収集して、研究文献データベースを作成する。

(2) 墨書土器について、地域別に1個ずつ、釈読文・実測図（複写）を基礎に、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体について調査を行った後、カード形式による詳細なデータを作成する。そして、データを電子媒体として編成し、詳細な墨書土器のデータベースを構築する。

(3) 全国的な比較研究を可能にするため、簡易型データベース（釈文・遺跡名・所在地・出典データ）を作成する。

(4) 墨書土器や他の出土文字史料と文献を併用して、地域社会における意思伝達の方法

と文字文化の様相を研究する。

4. 研究成果

(1) 墨書土器に関する研究文献データベースは、研究文献と報告書等を調査・収集して作成し、総計が1,866件になった（継続中）。

(2) 墨書土器データベースでは、詳細版のデータベース（釈読文・実測図（複写）・遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体）が、四国（徳島県79点・香川県94点・愛媛県79点・高知県26点）、九州（福岡県1,797点・佐賀県520点・長崎県28点・熊本県423点・大分県189点・宮崎県503点）、北陸の富山県2,639点、東海の静岡県5,609点を公開した。この成果により、関東以西の墨書土器の全国的比較研究が可能になった。墨書土器は、中国地方が弱いとはいえ、墨書土器研究の基本的資料が検索できる条件が整いつつある。

(3) 連携研究者の市大樹氏（大阪大学准教授）の協力で、奈良県の平城宮地区出土墨書土器3,319点、飛鳥・藤原地区221点の詳細版墨書土器データベースをホームページで公開することができた。この結果、地域と宮都との比較研究が可能となった。

(4) 福井県、長野県、岐阜県、和歌山県のデータは作成中である。茨城県は研究協力者の川井正一氏との連携で大部は作成済みであるが、まだ全域が終了していない。

(5) 全国の簡易版データベース（釈文・遺跡名・所在地・出典データ）は、データの補訂作業を並行して進行させ、現在は108,744点分を公開している。

(6) 文字資料を用いた地域研究については、現在、下総国府・国分寺がある千葉県市川市を中心に房総を研究対象にして進めている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計16件）

- ① 吉村武彦、列島の文明化と国家のしくみ、交響する古代—東アジアの中の日本—、東京堂出版、査読無、2011、pp.139-156
- ② 吉村武彦、列島の文明化と律令制国家、中日交流与中日關係的歴史考察學術交流會論文集、査読無、2011、pp.16-34
- ③ 杉原重夫・黒住耐二・堀越正行、印旛沼地域の縄文時代における環境適応、環境史と人類、査読無、第5冊、2011、pp.31-66

- ④ 加藤友康、平安時代の古記録と日記文学—記主の筆録意識と筆録された情報—、交響する古代—東アジアの中の日本—、東京堂出版、査読無、2011、pp.343-371
- ⑤ 川尻秋生、入唐僧宗叡と請来典籍の行方、東アジアのなかの韓日関係史、査読無、上、2011、pp.401-42
- ⑥ 吉村武彦、平城遷都と古代日本の成り立ち、NARASIA 東アジア共同体?—いまナラ本—、査読無、2010、pp.426-440
- ⑦ 川尻秋生、墨書土器からみた本貫地、比較考古学の新地平、査読無、同成社、2010、pp.505-514
- ⑧ 川尻秋生、保安元年「撰津国帳簿群」の性格、古代文化、査読有、62-1、2010、pp.123-129
- ⑨ 川尻秋生、書評古市晃著『日本古代王権の支配論理』—仏教の視点から—、歴史科学、査読無、202、2010、pp.1-5
- ⑩ 市大樹、木簡と平城宮大極殿、地図情報、査読無、114、2010、pp.4-6
- ⑪ 吉村武彦、日本列島における国家形成、日本古代学、査読無、1、2009、pp.3-12
- ⑫ 吉村武彦、「東国の調」とヤマト王権、吉村武彦、山路直充編『房総と古代王権』、査読無、2009、pp.347-371
- ⑬ 杉原重夫・金成太郎・佐藤裕亮、千葉県佐倉市宮内井戸作遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定、ちばリサーチパーク開発事業予定地内埋蔵文化財調査、査読無、8、2009、pp.342-345
- ⑭ 杉原重夫・金成太郎・入江千晶、東京都八王子市多摩ニュータウンNo.446 遺跡出土黒曜石製遺物の原産地推定、東京都埋蔵文化財センター調査報告書八王子市 多摩ニュータウンNo.441・446 遺跡、査読無、227、2008、pp.404-408
- ⑮ 吉村武彦、古代天皇制支配と律令・宮都（覚書）、吉村武彦・山路直充編『都城 古代日本のシンボリズム』、青木書店、査読無、2007、pp.339-361
- ⑯ 柴田博子、西海道の古代出土文字資料、木簡研究、査読無、29、2007、pp.199-210

〔学会発表〕（計19件）

- ① 吉村武彦、5・6世紀における半島・列島間交流、国際学術大会「韓・日文化交流の諸相」（代読）、2011年3月29日、韓国・高麗大学校
- ② 加藤友康、平安貴族の国際意識、第1回高麗大学校・明治大学 国際学術会議—韓日文化交流の諸相—、2011年3月29日、大韓民国・高麗大学校
- ③ 吉村武彦、列島の文明化と律令制国家、

学術検討会「中日交流と中日関係の歴史的考察」、2010年3月14日、中国・中国社会科学院

- ④ 加藤友康、古代貴族の国際意識、中日交流と中日関係の歴史考察・学術研究討論会、2011年3月14日、中華人民共和国・中国社会科学院
- ⑤ 川尻秋生、印波国造と東国社会、第61回地方史研究協議会大会、2010年11月14日、成田国際文化会館
- ⑥ 加藤友康、古記録と日記文学、国際学術研究会「交響する古代」、2010年11月6日、明治大学
- ⑦ 吉村武彦、列島の文明化と国家のしくみ、国際学術研究会「交響する古代」、2010年11月5日、明治大学
- ⑧ 市大樹、興道寺廃寺と周辺社会を舞台とした人々、美浜町歴史フォーラム（招待講演）、2010年9月25日、美浜町中央公民館ホール（福井県）
- ⑨ 市大樹、志摩国の荷札木簡—調と贅—、古代史サマーセミナー（招待講演）、2010年8月22日、志摩ビーチホテル（三重県）
- ⑩ 柴田博子、古代の物忌札と禁制木簡、平成22年度第1回宮崎県地域史研究、2010年4月25日、宮崎公立大学
- ⑪ 吉村武彦、ヤマト王権と古代東国、藤沢市生涯学習大学歴史講演会、2009年3月13日、神奈川県藤沢市
- ⑫ 吉村武彦、日本における令集解の研究、中国社会科学院歴史研究所研究会議、2009年3月5日、中国・北京市
- ⑬ 吉村武彦、日本列島における国家形成、中国社会科学院世界歴史研究所研究会議、2009年3月4日、中国・北京市
- ⑭ 吉村武彦、日本語表記史と万葉歌木簡、南カリフォルニア大学史学科講演会、2008年12月4日、米国・ロスアンゼルス
- ⑮ 吉村武彦、万葉歌木簡と日本語表記史、明治大学大学院シンポジウム、2008年11月15日、明治大学
- ⑯ 吉村武彦、古代国家の形成と都城・文字、明治大学国際シンポジウム、2008年10月4日、明治大学
- ⑰ 吉村武彦、東国の国造、飯田市地域史研究集会、2008年9月20日、長野県飯田市
- ⑱ 吉村武彦、国府と遊行女婦、市川市史編さん事業開始記念講演会、2008年7月12日、千葉県市川市
- ⑲ 吉村武彦、古代ヤマト王権と河内・難波、明治大学公開講演会、2008年6月15日、大阪全日空ホテル

〔図書〕（計8件）

- ① 吉村武彦・館野和己・林部均、角川書店、

- 平城京誕生、2010、総 229 頁
- ② 吉村武彦、岩波書店、ヤマト王権、2010、196
 - ③ 加藤友康、他、吉川弘文館、恒久の都 平安京（執筆：平安遷都と平安宮の政務）、2010、pp. 81-112
 - ④ 市大樹、他、吉川弘文館、古代の都 1 飛鳥から藤原京へ、2010、pp. 274-297
 - ⑤ 市大樹、吉川弘文館、飛鳥藤原木簡の研究、2010、総 623 頁
 - ⑥ 吉村武彦（編著）、新人物往来社、大化改新と古代国家誕生、2008、総 190 頁
 - ⑦ 杉原重夫、他、朝倉書店、日本地方地層誌 3 関東地方下総台地・段丘、武蔵野台地、2008、pp. 322-325、pp. 331-326
 - ⑧ 川尻秋生、小学館、日本の歴史 4 揺れ動く貴族社会、2008、総 350 頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/index.html>

→ 全国墨書・刻書土器データベース、墨書土器研究文献目録

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉村 武彦 (YOSHIMURA TAKEHIKO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：5 0 0 1 1 3 6 7

(2) 研究分担者

杉原 重夫 (SUGIHARA SHIGEO)

明治大学・文学部・教授

研究者番号：9 0 0 6 1 9 7 8

(3) 連携研究者

加藤 友康 (KATO TOMOYASU)

明治大学・大学院・特任教授

研究者番号：0 0 1 1 4 4 3 9

川尻 秋生 (KAWAJIRI AKIO)

早稲田大学・文学研究院・教授

研究者番号：7 0 2 5 0 1 7 3

柴田 博子 (SHIBATA HIROKO)

宮崎産業経営大学・法学部・教授

研究者番号：2 0 2 1 6 0 1 3

市 大樹 (ICHI HIROKI)

大阪大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：0 0 3 4 3 0 0 4